

## 語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (59) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

Basic 言語を見ること(seeing / viewing)・学ぶこと(learning)の手段はもちろん単に EP 本を介してのみではないが、semiotics (記号論・意味論)のこのプレ入門書も所詮は Ogden-Richards の *The Meaning of Meaning* 等での論考を透かし見ない限り本当には理解は難しい。EP 本は成立の経緯からしてそのように出来ている。筆者自身は元来が EP 本 I~III に関しては部分的・全面的改編版を考えるとするとどういう形態のものとなるか?に関心を向けているのであるが、III なら全面的に Basic 文がよい。

本会での研究も単に小中高生の英語学習のためだけではないはずだろう。Basic 実践では意味劇場(theater of meaning)での幕間のファルス・狂言(farce)的なものとは別に、本命の幕開けでの中身が見たい。丸い円(circle)も焦点の違いで楕円(ellipse)ともなるが、それを見たいのである〔*The Meaning of Meaning* (10th edition), pp.83-85 参照〕。

水(H<sub>2</sub>O)中の鉛筆は曲がっても見える(When you put a pencil in the water it seems bent where it goes into the water.)。これは<You see it as being bent there. : 認知・存在・場>の問題で perception (知覚)と関わる〔*The Meaning of Meaning* Chap. IV (Signs in Perception)など、EP 本なら II, pp. 103-107 および III, pp. 212-214 参照〕。歴史的には近世のルネサンス期以降に発達した絵画など芸術作品を知覚上での静的(static)から動的(dynamic)な見方へと perspective (視点)を移したことも関わる。この時代に「透視画法」から幾何学では平行線も交わると見る projective geometry (射影幾何学)が生まれた経緯もある。これがモノの見方のマンネリズム化からの脱却へとなった。このあたりは The Ogden-Richards Society of Nagoya, Japan [略称 The Nagoya ORS [ɔæz]]「名古屋オグデン・リチャーズ研究会」(目下、名称は非公開)での注目点でもある。

Richards とは別に Ogden は EP 本ならぬ PE (Panoptic English)本を介し Basic の体系(system)を「見せる」(let it be seen)ことに情熱を燃やしたが、ここでは本会用に Basic 言語成立後 100 年が近づくなかその全景(panorama)を見渡す学び(learning)の手早い方法を見ようとしている。将来的には Basic 言語を orthology (純正科学)として追究する専門研究者の輩出が期待される[なお、**PE: Panoptic English** は本連載(56)参照]。

今回の text 文解釈は(1)で人種差別だとして騒がれた tweet 文に関するもの、(2)はやはり人種差別と関わるが第二次世界大戦中にナチスドイツによる大量虐殺の行われたポーランドの Auschwitz(アウシュヴィッツ)強制収容所が、1945年1月27日にソ連(旧)により解放されたことに因んで制定された「国際ホロコースト記念日」についてである。

スラスラ読みながら分かり、分かりながら読みたい。程よい息の長さをもつ text unit (テキスト単位)での thought pattern recognition practice である〔EP 本なら III, pp.228-230 参照〕。(2)では時間をさらにさかのぼりスペイン語翻訳版対照でも見てみる。

- (1) We will never be a Socialist or Communist Country. If YOU ARE NOT HAPPY HERE, YOU CAN LEAVE ! It is your choice, and your choice alone. This is about love for America. Certain people HATE our Country. They are anti-Israel, pro Al-Qaeda, and comment on the 9/11 attack, “some people did something.”

Radical Left Democrats want Open Borders, which means drugs, crime, human trafficking, and much more. Detention facilities are not Concentration Camps !

America has never been stronger than it is now — rebuilt Military, highest Stock Market EVER, lowest unemployment and more people working than ever before. Keep America Great! (July 15, 2019)

▲「米国は社会主義国でもないし、共産主義国でもない、米国が嫌なら出て行けばよい！アメリカに対する愛国心の問題だ、この国を嫌う人間がいるが反イスラエル・親アルカイダであり 2001 年 9 月 11 日のテロ（ニューヨークなどでの同時多発テロ事件）に関して“何人かがやったことだ”とコメントする人間だ」。

「急進左派の民主党議員は国境の開放を望むが麻薬・犯罪・人身売買等々の問題が起こるのだ、(メキシコ経由で来る不法入国者の)拘束施設は強制収容所 (Concentration Camps : ナチのアウシュヴィッツ強制収容所) などではない！」。

「米国は今ほど強固であったことはない — 軍は再整備され、株価は最高、失業率は最低、雇用もこれまでにないものとなっている、アメリカを偉大なままにするのだ！」。

実は Trump 氏は前日にも似た趣旨で投稿をしていて白人至上主義で人種差別(racism)だと下院で評され、物議をかもした。当時のペロシ(Nancy Pelosi)下院議長は即座に Trump 氏を非難する決議を求める構えを示した。実際、この翌日には下院で非難決議案 (condemning resolution) が可決された。この決議に Trump 氏は反論した。

condemning resolution (非難決議) と言ったが、condemn (とがめる) は damn (のろい・のろい) と同系である。また、demon (悪魔) と同系。音感から意味を感じ取ることの重要性であるが、本連載では語に関して Basic 語以外はすべて未知だと想定もしている。常に既知の Basic 語をよりどころに同系語を見て取っていくわけである。condemn, damn, demon を [kɒndém], [dæm], [dí:mən] と何度も音にして唱えてみるとよい。全 Basic 語が心の中であふれ出る状態であれば **damage** がひらめいてくるだろう。

1~2 行目の IF YOU ARE NOT HAPPY HERE, YOU CAN LEAVE. の HERE はもちろんここでは in America の意味である。leave は spatial particle (空間不変化詞) とともに、here, there を背景にもっている。本連載(56)の(2)ですでに触れたが、‘to leave’ は ‘to go away from one place to another’ の意味であり、たとえば I will leave Tokyo for Yokohama. (東京から横浜へ行く) であれば I will go from Tokyo to Yokohama. の意味となる。here は AT/TO this point of space (and time)、there は AT/TO that point of space (and time) の意味で、それぞれ spatial deep sememe (空間深層意義素) としての <AT> <TO> を背景にもっている。そもそもモノの 移動事象 一般は <FROM α THROUGH β TO γ> の構造型で示され、これが文パターンということになる。

注意すべきは leave の原義は「去ること」ではなく「後に残すこと」だと言った。歌の題名に I left my heart in San Francisco. というものがあるが、ここでは heart が San Francisco に残ったわけである。上の tweet 文での... you can leave. では <FROM α> の α が America でありそれを後に残すこととなる。ここでの経路 <THROUGH β> の β は America の領土、<TO γ> の γ は other countries ということになるが β, γ は表層上には具現していない。合わせて、前回(58)の(2)で見た from across America to the White House (全米からホワイトハウスへ) という言い方も再確認しておきたい。

さらに動詞 leave と関連し、たとえば He reached the land. (彼は陸地に着いた) は He got to the land. ということなので <TO> をもっている。<TO γ> は必ず <FROM α>, <THROUGH β> をもつが、ここでは γ の the land のみで α, β は指定されていない。

関連し、C. J. Fillmoreのいわゆる Case Grammar (格文法) からは locative (位置格) への注目は意義がある。移動事象での directional thinking (方位思考) である。case (格) を locative に照準し論ずるものに Anderson, J. M.の The Grammar of Case: Towards a Localistic Theory (1971)がある。これは英語言語の全体解明につながるだろう。

さらにこのあたりは kinesics (動作学) とも関わるが、いわゆる paralinguistics (パラ言語学) の範疇となる発話中での手振りなど「しぐさ」による感情表示としての gestures なども、4つの spatial deep sememes (空間深層意義素) <AT> <FROM> <THROUGH> <TO>の作用が関わると筆者はみたい。そもそも gestures はどこから来るか?やはり paralanguage たる感情表示法 gesturing は本連載(29), (32), 前々回(57)などで触れた数理での不定積分方程式  $F(x) = \int f(x)dx + C$  からすれば積分定数  $C$  と考えればよいことになる。右辺の  $\int f(x)dx$  が sense value (意味価)、 $C$  が feeling value (情緒価) で Ogden-Richards の The Meaning of Meaning の趣旨内容とも結びつく。さらに上記 Case Grammar での deep locative case (深層位置格) との接点もあるとみたい。

なお、「意味」の意味(the meaning of 'meaning')という見方があるなら「無意味」の意味もあろう。実は Ogden-Richards の The Meaning of Meaning (1923)の裏返しで Blocker, G. の The Meaning of Meaninglessness 『無意味の意味』(1974)がある。この文献はまずは Ogden-Richards に言及することで論旨が展開するが、その首尾一貫した論旨は見事であり Basic 言語や EP 本成立の背景などを見る上でも必携書である。

太線語 comment は音形と語形から本連載(11)で提示した英語同系語パノプティコン (Paronymic Panopticon of English: PPE) [仮称] をよりどころに Basic 語 mind を直感したい。comment の原義は「心の中で見る・思うこと」である。monument (記念碑) も同系 [前々回(57)の(2)参照]。mind などは本連載(20)の(2)、(27)の(2)、(45)の(2)、(57)の(2)で見たので要確認 [さらには拙著(2016)、松柏社、第二部、例(28)参照]。文中の下線部 America ... now と Keep America Great! は内容的につながる。Basic 文でもある。

今日的な corpus linguistics (コーパス言語学) の一端として上の(1)の tweet text の readability (可読性)、すなわち読みやすさの度合い(grade level)をアメリカの R. Flesch & P. Kincaid の分析法に従って Net 上で調べてみた。指標となる Flesch Reading Ease Score (FRES) は 60.4 (最高値 100)、またこれの Flesch-Kincaid Grade Level (F-KGL) は 7.4 という結果を得た [5~16 がアメリカの学年レベルでほぼ小学校5年~大学4年を示す]。FRES と F-KGL の2つの数値 60.4 と 7.4 を基に総合的に考えれば、この text は学年としては 8~9 学年レベルに相当すると考えてよいことになる。すなわち、この text の readability はアメリカでの junior high school level ということになる。

目下、筆者自身 Basic の text 文例の場合の readability (可読性) と audibility (可聴性)、すなわち各々その読みやすさと音声面からの聴きやすさの度合い(grade level)を追究中であるが、かなりデータは整いつつある。FRES と F-KGL の難易度算出法の公式は本連載(34)ですでに示しておいたのであるが、再度改めて次に提示しておく。

• <b>FRES</b> : $206.835 - 1.015 \times (\text{total words} / \text{total sentences}) - 84.6 \times (\text{total syllables} / \text{total words})$
• <b>F-KGL</b> : $0.39 \times (\text{total words} / \text{total sentences}) + 11.8 \times (\text{total syllables} / \text{total words}) - 15.59$

[以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05) より — 2言語対照]

(2) On Holocaust Remembrance Day we mourn and grieve the murder of 6 million innocent Jewish men, women and children, and the millions of others who perished in the evil Nazi Genocide. We pledge with all of our might and resolve : Never Again ! (January 27, 2018)

cf. En el Día de la Conmemoración del Holocausto lamentamos y lloramos el asesinato de 6 millones de hombres, mujeres y niños Judíos y el de otros millones que perecieron en el malvado Genocidio Nazi. Nos comprometemos con toda nuestra fuerza y decimos : ¡ Nunca Jamás ! (27 de enero, 2018)

▲ 「国際ホロコースト記念日(International Holocaust Remembrance Day)にあたり、(第二次世界大戦中の) 600 万人のユダヤ人死者、および他の多数の死者に哀悼の意を捧げる、われわれの努力と決意で決して再び起こらないことを誓う！」という内容。

旧約聖書に記されるがユダヤ人は神の特別な選民(chosen people)とされ、迫害され、離散の民として世界各地へ渡り、行先の地に定住し農耕に従事するのではなく商売(ビジネス)・金融業などに携わり裕福になったが、嫉妬もされ第二次世界大戦では Hitler (ヒトラー) の率いる Nazis (ナチス) により大虐殺された。商売といえば日本の近世の土農工商の身分制度の下では農民が武士につぐ上位の身分であり商人は最下位ということになるが、ユダヤ人は各地でビジネスの面で成功した [ユダヤ商法(Jewish way of doing business)という言葉もある]。彼らはさらに多方面の分野でも成功し今日に至っている。

太線語 holocaust (ユダヤ人大虐殺) は{holo (= all) + caust (=burn)}と形態素分解される。holo-は本連載(33)の(1)、(51)の(1)で見た un-Basic 語 whole、プラスα Basic 語 holy (聖なる) と同系。Basic 語 healthy と同系。un-Basic 語 hail (歓呼する・絶賛する) も同系で、どれも「完全であること」の原義をもつ [同上拙著、第二部、例(129)参照]。

太線語 mourn (悲しむ) は本連載(20)の(2)、(27)の(2)、(57)の(2)、さらに上の(1)で扱った 'to see with the mind's eye' が原義の Basic 語 mind、memory などと同系。文中の remembrance もそうで、他にも同系語は多い [改めて同上拙著、第二部、例(28)参照]。

太線語 innocent (無罪の・潔白な) は実は Basic 語 night と同血統は同じ語である。innocent は {in (= not) + noc (= night) + ent} で「夜のような暗さのないこと」である。語根 noc から nocturne (夜想曲・ノクターン) があるし、equinox (春分・秋分) {equi (= equal) + nox (= night)} などもこの系列語である [同上拙著、第二部、例(147)参照]。謎かけなら「innocent と掛けて何と解く?」、「Basic 語 night (夜) ではないと解く」、「その心は?」→「暗いところがないのが innocent (潔白である)」のようになる。

太線語 perish (消滅する・死ぬ) は本連載(33)の(2)、さらに前々回(57)の(1)で issue を見たが同系である。perish は{per (= complete) + ish (= to go)}であるが、さらに関連して perishables が「腐りうるもの」、すなわち「生鮮食料品」のことであるとはずで言った [さらには同上拙著、第二部、例(107)解説、および第三部 p.198 参照]。

太線語 genocide (大虐殺) の geno- [dʒénou] は「ヒト(man)の種(sort)」のことである。-ci-の[sai]([si])の音に「切ること」の意味がある。同系語を Basic 語に求めれば scissors, decision がある。また Basic 語 short, shirt, shelf, skirt など[j], [sk]などの音をもつ語が同系となる。プラスα Basic 語 screen (スクリーン)、un-Basic 語 suicide (自殺)、shredder (シュレッダー) など同系 [同上拙著、第二部、例(6), (141)参照]。

cf. のスペイン語 Día, Conmemoración, Holocausto, lamentamos (< lamenter), asesinato, millones, Judíos, otros, perecer, Genocidio, Nazi, comprometemos (< comprometer), toda, fuerza, nunca は各々、英語 Day, commemoration, Holocaust, lament, assassination, millions, Jewish, others, perish, Genocide, Nazi, compromise, total, force, never (< no + ever) に対応し同系語 [太字体は Basic 語、下線は Basic の範疇語]。英語⇔他西洋語⇔日本語の三者相互思考は事の理解度を深めることとなる。

